

解答範囲は、解答番号 から までです。

(二) 左の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【引用部分は削除しています】

【引用部分は削除しています】

(太田充胤「踊るのは新しい体」による)

〔注〕 ○穿刺＝体外から血管・体腔内や内臓に注射針を刺すこと。 ○肘窩＝肘の反対側・腕の内側にある浅いくぼみ。
○手背＝手の甲。 ○川端康成＝『伊豆の踊子』『雪国』などで知られる日本の作家。一八九九―一九七二。
○金森修＝科学思想家、現代科学論を専門とする日本の哲学者・思想家評論家。一九五四―二〇一六。 ○テン
ボラー＝一時的な。仮の。臨時の。

問一 傍線部⑦～⑨にあたる漢字を、次の各群のうちから一つずつ選びなさい。

解答番号 1 ～ 4

⑦ シキチヨウ ① 腸 ② 兆 ③ 調 ④ 徴

⑧ ネンド ① 念 ② 燃 ③ 粘 ④ 捻

⑨ ヨウソウ ① 層 ② 相 ③ 装 ④ 槽

⑩ ヒソウゾウブツ ① 被 ② 非 ③ 否 ④ 比

問二 傍線部①「一連の作業で扱うそれらの腕は、退院するとき固い握手を交わす患者さんの腕と同じ腕ではなかった」とありますが、その説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 5

- ① 人間は、スイッチのON/OFFのように、見る対象の認識を切り替えることができ、「私」は退院する患者をまるで人形のように見ている。
- ② 医学の分野では、実習や勤務を通して患者の心情に寄り添うよう訓練を受けるため、「私」は針を刺した相手の痛みを我がごとのように受け止めている。
- ③ 川端康成の「片腕」で描かれているように、穿刺する際の患者の腕には「靈魂」が存在しているため、「私」の判断を鈍らせている。
- ④ 初めこそ生身の人間に穿刺するのには恐怖が伴ったが、訓練の末、「私」は人体をある種のモノとして観る視点を獲得し、切り替えの回路を機能させている。

問三 傍線部②「モノに八つ当たりするときのやり方で衝動的にベッドに投げ捨てる」とありますが、そのような行動をした理由の説明として、明らかに合致しないものを一つ選びなさい。

解答番号 6

- ① 「片腕」は一種の人形で、人形は打ち捨てられる宿命のもとにあるから。
- ② 「男」から「片腕」へ向けられる親密さは、相手人間扱いしたものではないから。
- ③ 「愛玩」という表現から読解できるように、「男」が乱暴な人間であるため。
- ④ 「片腕」が「男」の認識の中で、人間からモノに変わったため。

問四 傍線部③「この認識論的なスイッチ」に関連する事例として、明らかにふさわしくないものを一つ選びなさい。

解答番号 7

- ① 他人には「見えない友達」を心の中で作り、会話をする。
- ② 大道芸人が「静止芸」を始めた途端、本物の銅像のように見えた。
- ③ 人形浄瑠璃の人形が生きているように見えた。
- ④ 不眠不休で旅行者をサポートするガイドロボットに心打たれる。

問五 傍線部④「人形の靈魂」についての説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 8

- ① 人形の靈魂は、見る者の眼差しによって、その皮膚に目に見えない糊のように固着するものである。
- ② 一過性にせよ、人形が靈魂を宿すためには、制作者が文字通りに魂を込めて制作を行う必要がある。
- ③ 人形の靈魂は語義矛盾を含む表現だが、それは観察者の眼差しによって人形の至る所で成立しうる。
- ④ 人形に靈魂を認めるならば、目に映るすべてのモノは人間の身体であるということになる。

問六 傍線部⑤「思い返せばあの日の実習で、私は人形の腕を刺すときからも、冷や汗をかいていたのではなかったか」とありますが、その理由を説明したものとして、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 9

- ① ズブの素人の同級生から針を刺されることを想像したから。
- ② 人体の形をしたモノを身体として認識したから。
- ③ 人形の体表に、靈魂の気配を感じて驚いたから。
- ④ 人間の存在までが物言わぬモノに感じられたから。

問七 空欄 A ～ C を補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

解答番号 10

- ① A ひとまずは B たとえば C たしかに
- ② A さしあたり B いわば C けれども
- ③ A なかば B それは C ひとえに
- ④ A ようは B そして C いったんは

問八 傍線部⑥「独立した物質」とありますが、この「独立した」の説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号

11

- ① 人間の手によって作られ、所有され、飾られるはずの人形が、作り手を拒否し、アイデンティティを獲得し得る。
- ② 人形は素材や表現形式の制限などの外的要因に左右され、人形作家の意図から乖離した存在として生み出される。
- ③ 人形は人形作家のイマジネーションによって創造されるのではなく、その生涯が初めから運命づけられている。
- ④ 父も母もなく、生殖的な繋がりもない人形は、天涯孤独な存在として生み出された、神の分身と呼ばざるを得ない。

問九 この文章の内容に合致するものを一つ選びなさい。

解答番号

12

- ① 採血実習を通して、筆者は身体がモノに見える、あるいはモノが身体に見えるという認識の切り替えについて自ら言語化できるようになった。
- ② 人間とモノの区別は見るとの認識によるものであり、目に映るモノすべてが身体に見える場合もあれば、身体がモノに見える場合もある。
- ③ 非生命である人形に魂の自存性を認めることで、川端康成の短編で登場する「片腕」が自ら動きだすビジョンを金森修は抱いている。
- ④ 身体の形をしているモノ、すなわち「人形」に対して靈魂の存在を認めるならば、患者の腕は物質的量感をもつ魂と呼ぶことができる。

〔二〕 左の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、本文中の傍点は原文についているものです。ちなみに、文中で言及される「ここ」は夏目漱石の小説です。その内容については本文の後にある注を参照のこと。

【引用部分は削除しています】

【引用部分は削除しています】

【引用部分は削除しています】

〔矢野利裕「国語」と出会いなおす〕による〕

〔注〕
○「こころ」『夏目漱石（一八六七～一九一六）が一九一四年に発表した小説（本来の表記は「こゝろ」）。大学生である「私」は偶然に出会った「先生」と親交を持つ。のちに「先生」は自殺し、「私」はその遺書から、独身時代の「先生」が自身と静（のちに「先生」の妻となる女性）および「先生」の親友であった「K」との間に三角関係があったことを知る。○構造主義Ⅱ文化的・社会的現象の背後には何らかの構造があり、現象のありかたを規定しているという考え方。二〇世紀前半以降、言語学や哲学、人類学など様々な学問分野で用いられるようになった。○クロード・レヴィ・ストロースⅡフランスの社会人類学者。構造主義による人間社会や神話等の研究で知られる。一九〇八～二〇〇九。○与えられた有限個のクラスⅡ本文では「ある問題を考察するために提示された、限られた個数の概念」を意味する。○蓮實重彦Ⅱフランス文学者、文芸、映画など幅広い分野で評論活動を行っている。一九三六。○柄谷行人Ⅱ哲学者、思想家。近代思想研究、文芸評論など幅広い分野で著述活動を行っている。一九四一。○大江健三郎Ⅱ作家。『飼育』『万延元年のフットボール』『芽むしり仔細』など多数の作品がある。一九九四年ノーベル文学賞受賞。一九三五～二〇二三。○アレグリーⅡ抽象的な概念を、具体的な

物・事・人物によって暗示する表現方法。寓意、寓意像。○リロイ・ジョーンズ（アミリ・バラカ）Ⅱアメリカの詩人、作家。アフリカ系アメリカ人の立場から社会活動やジャズ音楽の評論などを行った。はじめ本名に基づくリロイ・ジョーンズの名で活動し、後にアミリ・バラカと改称した。一九三四～二〇一四。

問一 傍線部①「この構造としての『物語』における各要素の入れ換え可能性が、読者の感情移入や共感を誘う」とありますが、それを説明したものととして、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 13

① 読者は、例えば「こころ」の登場人物である先生とKと静の個別具体的な行為を認識する。次に先生とKと静を、読者自身と身近な二人の他者に置き換える。そして読者はそこに三角関係という一般的な関係性を見いだすことで、共感を抱くことが可能となる。

② 物語自体は作中人物の行動や他者との関係を描いているが、読者はそれらを構造として捉え、個別化、具体化する。その上で読者は自分の身近にいる人物や、その人物同士の間で描かれている関係性を抽象化、一般化して重ね合わせることで、作品に共感を抱くことが可能となる。

③ 読者は、例えば「こころ」の作中人物である先生とKと静の個別具体的な三角関係を、まず構造として捉えなおす。次いで作中人物を抽象化、一般化し、自分の身近な現実にいる誰かに置き換えることで、読者はその現実の誰かに共感を抱くことが可能となる。

④ 作中人物の行為や、作中人物同士の間で描かれている関係性は個別具体的な要素であるが、読者は「物語」を構造として捉え、各要素を一般化する。それによって読者は各要素を自分の身近な現実にある諸要素に置き換えることができ、作品に共感を抱くことが可能となる。

問二 傍線部②「物語」にもとづく入れ換え可能性は、小説に描かれた個性や一回性を消去してしまう」とありますが、その説明として、明らかに合致しないものを一つ選びなさい。

解答番号 14

① 小説の中で描かれる人物たちは、それぞれ世界で唯一の存在である。しかし物語を構造として捉え、構造の各要素を入れ換え可能にすると、その人物たちの個性が失われてしまう。

② 小説の中で描かれる事柄は、読むたびに異なった印象を読者に与える。しかし物語を構造として捉え、構造の各要素を入れ換え可能にすると、その個性や一回性が失われてしまう。

③ 小説の中で描かれる人間関係は、作中人物たちの間でだけ生じたものである。しかし物語を構造として捉え、構造の各要素を入れ換え可能にすると、その個性が失われてしまう。

④ 小説の中で描かれる行為は、作中の各人物が一度だけ行うものである。しかし物語を構造として捉え、構造の各要素を入れ換え可能にすると、その個性や一回性が失われてしまう。

問三 空欄 X を補うのに最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 15

① 切断する契機

② 黙視するモノ

③ 看取する契機

④ 指示するモノ

問四 傍線部③「このことがとても不思議に思えてきます」とありますが、筆者がそう思う理由として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 16

- ① 生徒たちや各自が持つ教科書は個別の存在である。にもかかわらず生徒たちはみな、自分が教科書で読んでいる「物語」を、他者が読んでいるそれと同じだと信じているから。
- ② 生徒たちの教科書は一つ一つ別のモノであり、紙も、文字のインクの染みも異なっている。にもかかわらず、生徒たちはみな同じ状態の印刷物を眺めていると信じているから。
- ③ 教室にいる生徒たちはそれぞれ別人であり、同じ小説を読んでも各自の感じ方は異なっている。にもかかわらず、みな教室で同じように感じていると生徒たちが信じているから。
- ④ 生徒たちはそれぞれ読める漢字や知っている語句が異なっている。にもかかわらず、教科書にある同じ漢字や語句を、みな同じように読めていると生徒たちが信じているから。

問五 傍線部④「漢字の読みかたや語句の意味を調べるなどして……把握するようになります」とありますが、その説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 17

- ① 作品内の文を表示している文字や文字列（漢字や語句）の読み方や意味を確かめ、語や語句の間にある意味上の区切りや意味的な連関を理解する。その後、文字列で表示された文が述べている個別具体的な出来事を抽象化していく。すると作品を構造として把握できるようになる。
- ② 知らない漢字の読み方や語句の意味を確かめると、文章の内容が明確になる。その後、物質的な文字列にしか見えなかったものが抽象的な意味（語義や文意）を表す文章として理解されてくる。すると文章の総体である作品が意味を持ち、作品の構造を把握することが可能になる。
- ③ 文を構成する漢字の読み方や語句の意味を確かめると、文字列が単なる形態ではなく意味をもつものとして理解される。その後、作品の各部分の意味を抽象的に考えることを繰り返し、結果として作品全体を抽象化する。すると作品の文学的価値を構造面から把握できるようになる。
- ④ 読み方や意味が分からず浮遊して見える文字の意味を調べると、文字がだんだんと落ち着いて見えてくる。その後、インクの染みである文字列を抽象的な意味の集まりとして認識する。そうすると文字列の全体である作品を抽象的、一般的な構造として把握することが可能になる。

問六 空欄 A C を補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

解答番号 18

- ① A とはいえ B 穴をつつく C にもかかわらず
- ② A それゆえに B 純びをとり繕う C その上で
- ③ A えてして B 絆をつよめる C それに加えて
- ④ A やつぱり B うそをあばく C 他方では

問七 傍線部⑤「そのゆるやかさがそこが大事でしょう」とありますが、筆者がそう考える理由として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 19

- ① 学校という場ではカリキュラムの一環として文学作品を読むことが求められており、文学とは縁遠い人々を含む教室の生徒たち全員に作品の面白さを知ってもらおうとすれば、ゆるやかな場の雰囲気が必要だから。
- ② そのゆるやかさが「みなで同じ物語を読んだ」と信じることに基づくコミュニケーションを生み、またそのゆるやかさのなかで、ふだん読書をしていない人々を含む幅広い人々にとっての「文学」が生成されるから。
- ③ 文学を読む授業の場に、そのゆるやかさがあることで生徒たちは共同性を得ることができ、またそれだけでなく、やがて彼らが教室という枠や世代の壁を超えた、社会全体の共同性を構築することにつながるから。
- ④ そのゆるやかさがあることで、生徒たちは単独の存在として教科書に向き合うような経験を経ることなく、むしろ教室の場で文学を読むことを通して他者と結びつき、生きていく上で大事な共同性を獲得するから。

問八 この文章の筆者の考えに合致するものを一つ選びなさい。

解答番号 20

- ① 小説の内容を自身の体験や身近な出来事に引き寄せて読むことで、同じ作品を読んだ他者に対する共感が生まれる。
- ② 小説は「一回的な出来事」を描くものであり、教室で繰り返して読むことは、小説がもつ本来の性質にそぐわない。
- ③ 小説を持つ個別性・単独性 を捨象することなく読むために、読者は単独の存在として本に向き合うことが必要だ。
- ④ 「物語」を読むことで人々のあいだに生まれる共同性とは疑似的なものであり、いかなれば穴の空いた共同性である。

〔三〕 左の文章は「住吉物語」の一節です。中納言には二人の妻がいて、姫君、中の君、三の君という娘がいました。姫君の母は亡くなってしまい、姫君は中の君と三の君の母親(継母)のもとに迎えられますが、継母にひどい扱いをされ、乳母の娘である侍従とともに住吉の尼君を頼り、身を隠すことにしました。これを読んで、後の問いに答えなさい。

さて少将は、その夜おはして、兵衛といふ若き女して、侍従を尋ねさせたまふに、音もせず。姫君の御あとにやと、几帳の内を見るに、姫君も侍従もおはせざりければ、うち騒ぎて、少将殿にかくと申せば、胸うち騒ぎて啼きたまひけり。さても、いかなることにかと、おのおの尋ねたまひけり。

明けぬれば、人々おはし所を見れば、夜の御衾、常に弾きたまひし季もなく、唐櫃に錠さして、よろづしたためたるさまなり。さて、中納言殿にかくと申せば、あきれ騒ぎて、泣き悲しみたまふこと限りなし。中の君、三の君騒ぎ、「あやし心細げにおぼしつれども、かくまでは思ひも寄らず」とて、悲しみたまひけり。継母は、「たばかりすまし、この人失ひけることこのうれしさよ」と、心の内に喜びつつ、あされたるさまにて、中納言殿のそばにて、涙も落ちざるに、そら泣きしてにがみたり。

(中略)

さるほどに少将は、行方も知らず、いづくをさして尋ねべきにあらねば、心のみまどひて、夜な夜な対におはして、「たぐひなき人を。いかなる所にか埋もれておはす」**X**。かく世にあらじとおぼしめしけるに、情けある御返事などはべるにこそ」と、おぼし乱るるも苦しければ、宮仕ひも物憂くて、過ぐる月日も暮らしかね、明かしわづらひたまふ。

さて姫君、侍従、住吉に着きはべる。住の江といふ所のいとをかしきさま、板庇に造りたる。かの所は入り海なれば、池のやうにありける所に、釣殿を造りかけたれば、簀土の下に、魚などの行き違ふも見ゆ。水鳥の上毛の霜を打ち払ひ、また南には一村里もほのかに見ゆれども、霧立ち籠めて、そことも見え分かず。磯の苔屋にはみるめ刈り干し、蘆の苔屋に立つ煙、心細くも立ち昇る景色、見るにあはれもまさりけり。東を見たまへば、音に聞きし住吉の神、目のあたりに見えたまふ。西の峰には色々の花、紅葉、五葉の松にたぐへつつ、竹多く見えたり。「幾代経ぬらむ」と言ひわたりたる峰の姫松、並み立てり。日入る

姿、海の中にとあやまれ、松の木の間より見過ごせば、壁の苦舟行きかふや、名に高砂のみ見えつつ、淡路島ま近く見えたり、聞きしよりもをかしかりける。わざと来たる人ならでは、通ふ人もなし。いと静かにあはれなる住みかにはなる。

持仏堂小さく建て、阿弥陀の三尊すえたり。日の入る時は、尼君西に向かひて、「南無西方極楽世界の阿弥陀仏、迎へたまへ」と祈るを見るにつけても、あらぬ世に生れたる心地して、姫君、侍従、「尼になり、ともに後世を願はむ」とはべれば、「御ぐしは、とてもかくてもありぬべし。御心にこそよるべきことなれば、今はこの尼が申さむまゝにておはしませ。さなくは、うち捨てまゐらせざらひ、隠ればべらむ」と申せば、それもさすがに背きがたく、明け暮れ仏の御前にて、経を読みたまひて、「母もろともに、一つ蓮の縁」とぞ折り申させたまひける。

さても、少将はそのち、精進をのみしたまひて、聞こえおはします所々へ参り、ただ、「姫君のおはし所を知らさせたまへ」とぞ祈りたまふ。また雪降りたるに、鞍馬へ参りて、下向したまへば、日ごろの雪に、埋れ蓮の絶え間に水鳥どものある中に、つがはぬ鴛鴦を見たまひて、かくなむ

わがごとく物や悲しき池水につがはぬ鴛鴦のひとりのみあて

①しるしをなし。

(「住吉物語」による)

(注)

○住吉＝現在の大阪市住吉区あたり。○少将＝姫君に心を寄せている貴族。○兵衛＝来客への応接役を務める女房。○夜の御衾＝寝具。○唐櫃＝蓋付きの中国風の大きな木箱。衣装や調度品を取納するもの。○対＝姫君が住んでいた西の建物。○住の江＝現在の大阪市住吉区一帯を指す。○釣殿＝水の上にかかる形につくられた建物。○磯の苔屋＝海辺の苔葺きの粗末な小屋。苔とは、萱、茅などの草を編んだもの。○みるめ＝海藻。○住吉の神＝現在の大阪市住吉区にある住吉大社のこと。○「幾代経ぬらむ」＝「我見ても久しくなりぬ住の江の岸の姫松幾代経ぬらむ」(古今和歌集)を踏まえている。○蓮の苦舟＝漁師の乗る苔葺きの屋形のついた舟。

○名に高砂＝「名に高き高砂」の意。高砂は、現在の兵庫県高砂市で、播磨国の歌枕。○持仏堂＝所持する本尊を安置した別棟の堂。○阿弥陀の三尊＝阿弥陀如来と観世音菩薩と勢至菩薩。○後世＝ここでは、死後。極楽に生まれること。○一つ蓮の縁＝浄土に咲く一つの蓮華の台に生まれ合はす縁。○精進＝神社仏閣に詣でるために心身を清めること。○鞍馬＝現在の京都市左京区鞍馬にある鞍馬寺。○鴛鴦＝オシドリ。冬の水鳥で、雌雄離れず仲むつまじいとされる。○聞きとがむる＝話し相手になつて慰めてくれる。

問一 波線部a「見るに」、b「嘆きたまひけり」、c「思ひも寄らず」の主語の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 **21**

- ① a 兵衛 b 少将 c 中の君と三の君
② a 兵衛 b 兵衛 c 姫君
③ a 少将 b 少将 c 中の君と三の君
④ a 少将 b 兵衛 c 姫君

問二 空欄 **X** を補うのに最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 **22**

- ① めり ② まじ ③ らむ ④ なり

問三 傍線部①「情けある御返事」は、失踪前の姫君が少将に渡した手紙を指します。少将は、この「御返事」について、どのように解釈していますか。最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 **23**

- ① 姫君は、もうこの世から消えてしまおうと決心して、情け深いお返事をくださったのにちがいない。
② 姫君は、もうこの家には留まるまいと決心して、情け深いお返事をくださったのにちがいない。
③ 姫君は、自分がいなくなったら、少将がこの世から消えてしまおうと思ひ、情け深いお返事をくださったのにちがいない。
④ 姫君は、自分がいなくなったら、少将もこの家を出るだろうと思ひ、情け深いお返事をくださったのにちがいない。
- 問四 傍線部②「音に聞きし」の現代語訳として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 **24**

- ① 悪いわさになっている
② 周囲がとてにぎやかな
③ 評判が高くて有名な
④ 波の音が聞こえる中に

問五 傍線部③「うち捨てまらせさぶらひ、隠れはべらむ」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号

25

- ① 姫君は、この住吉の地をお見捨てになって、どこか別の場所にお隠れになるのがいいと思います。
- ② 阿弥陀仏は、姫君と侍従をお見捨てになって、どこかにお隠れになってしまおうと思います。
- ③ 姫君は、私をお見捨てになって、どこかにお隠れになるのがいいと思います。
- ④ 私は、姫君と侍従をお見捨て申し上げて、どこか隠れてしまおうと思います。

問六 傍線部④「しるしもしなし」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号

26

- ① 姫君の居場所を知るための方法もない。
- ② 姫君の居場所がわかるようなご利益もない。
- ③ 姫君が自分に心を寄せているかどうかを知るための方法もない。
- ④ 姫君が自分に心を寄せているかどうかがわかるようなご利益もない。

問七 この文章の内容に合致するものを一つ選びなさい。

解答番号

27

- ① 姫君が行方不明となったことを、父である中納言は悲しんだが、継母と中の君と三の君は、心の中で喜んだ。
- ② 住吉に着いた姫君は、周りを見渡してみたが、心を惹かれるようなものは何もなく、都に帰りたくなった。
- ③ 姫君と侍従は、住吉の地で出家して尼になり、毎日持仏堂で経を読み、穏やかな日々を送っている。
- ④ 少将は、姫君の行方を捜していたところ、一羽の鶯鶯を見て、自分の状況になぞらえて和歌を詠んだ。

問八 「住吉物語」は、継子いじめの物語です。同じく継子いじめの物語として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号

28

- ① 「落窪物語」
- ② 「うつは物語」
- ③ 「とりかへばや物語」
- ④ 「伊勢物語」